

平成26年度 第4回 プロジェクトチーム・スリープレイ

議 事 録

日時/会場：平成26年8月26日（火）14:00～17:00 / 役場臨時庁舎3階家庭科室

出席委員：谷順二、小島幹生、山田由理子、堀井美也子、穴原奈都、菊地健一郎

菊池和式、浅沼浩希、菊地直彦、関健太郎

欠席委員：壬生貴則、平野光男、平松勝憲、沖山勝彦

三宅村：北川係長、鈴木、杉本（記録）

1. 会議資料

- ①三宅島島コンツアー2014 参加者名簿
- ②三宅島島コンツアー2014 収支予算書
- ③三宅島島コンツアー2014 スケジュール確認表
- ④三宅島における人口増加対策事業について

2. 三宅島島コンツアー2014 について

谷会長：島コン前の最後の協議のためビオの中塚さんにも参加いただく。前回会議後、今年度の島コンについて実行委員会を2回開催。粗方固まったので穴原委員から説明を。

穴原委員：参加申し込み状況について。事前に女性と男性の参加者名簿を渡した。男性参加者は名簿では17名だが、島内のみ参加者が1名追加で計18名。明日午後7時から商工会で事前説明会を行い、行程と注意事項の説明、プロフィール動画の撮影行う。女性は23日時点で「出会いたいコース」に17名（定員15名）の申し込みがあり25日で締め切りとした。WEBでもこのコースは締め切りのバナーを出した。今回は年齢層が前回より若く20代～30代のみで40代はいない。

中塚さん：平均年齢は30代半ばくらい。

穴原委員：入金も半数以上は済んだが、まだの5名にはビオが確認メールを送付する。暮らしたいコースは現在12名の申し込みで8月末まで募集し、定員になれば終了。こちらには50代の方もいるが、島暮らしに興味があるということで参加いただく。両コースの女性参加者には9月1週目に都内「ばんやしおさい」で事前説明会をビオが行う。その際、行程の他に島の特徴など具体的なことも説明。

谷会長：ここままで質問があれば。説明会に来られなかった男性は？

穴原委員：説明会時の資料を後日届ける。説明会への出欠席は当日でないと分からない。

谷会長：暮らしたいコース参加者の応募時点での反応は。

穴原委員：島暮らしに興味はあるが、なぜ女性だけなのかと気にしている方が若干いた。また、ツアー中に出会いたいコース参加者との接点はどのくらいあるかと気にする

方も。あとは参加者の平均年齢についてなど。なぜ女性だけという声が…。

谷会長：今回のチラシを見てなぜ女性だけなのかという反応が自分にも届いている。ふれあい交流事業は実際には人口増加が目的で、男性は駄目か、既婚者は駄目かと協議したが色んなリスクがあるので。このことを各委員も頭に入れ、上手く扱わないと。今後人口は相当減っていく中でここをあえて入れたのは、定住促進の提案書を出すとしてもこの部分の成果は役に立つと思うので、その扱いは十分注意する。

浅沼委員：説明としては、暮らしたいコースも試しに入れているが、あくまで出会いたいコースがメインの予算緒言であるので。ツアーでは同一行動の部分も多いため、配慮の上で女性限定としたと。試験的に設置したコースで反応をみたいと。

中塚さん：今回はお試しということで参加者側も恐らく同じであろう。ただ、今後本気で取り組むのであれば、参加者が本気で暮らしたいという時、どこに相談して不動産はどこで借りるというオペレーションが必要。子供がいれば自然と地域のコミュニティーに入っていけると思うが、独身の場合、仕事はネットでもできるが、島で仕事を探す場合はここで斡旋してくれるという手引書のようなものをこのタイミングで作りはじめた方が。すぐに問い合わせがくることも考えられる。

谷会長：正直、こちらはそこまでの段階までは至っていない。ツアー冒頭で私が挨拶をするが、その時に申し訳ないが現在進行形だということの話はする。

中塚さん：暮らしたいコースと謳っている以上、手の内をあまり準備できていないということ…費用を払って参加しているので。窓口としてはまずは谷さんで良いと思うが、もう少し準備というか…。

谷会長：協力的なところもあって、就職先という点で3件の話はある。

中塚さん：申し込む人が気になるだろうポイントを、具体的な人物像を設定してストーリーにしたものをメールで送ったので、今でなくても良いが作られた方が。

浅沼委員：今回、暮らしたいコースは職場を一応回るのので、雇用契約を結ぶ相手がマッチングできた段階で、雇用に向け直接打ち合わせの中で不動産だなんだという手引は業者委託に変わる。本当に来たいという具体的な話が実際に成立した場合は。雇用先と参加者のマッチングが成立した段階から具体的に事業者と直接話し合ってもらおうというのが現状の流れなので。

中塚さん：(話は)少し先にいってしまっているが、今後本気で移住者を受け入れると考えているのであれば、窓口なり手引きなりはある程度準備された方が便利かなと。

浅沼委員：この婚活の予算は来年度で終わるので、その後にかういったものができればという流れがあると思うので。それに関しては形を作っていかなければならない。

穴原委員：申し込んだ方たちへの情報提供としては、いくつかパターンがあると。具体的にイメージできるよう例えば民間の商店が希望の方には正大さんとか、医療系が希望の方には住居がある程度保障されている村職員やあじさいの里職員、その他にも民間や個人的なツテなどで方法はあると、3パターンくらい具体例を挙げて。

浅沼委員：本当に住みたくても知り合いがいないと島に住むのは現実的には不可能。その縁故を島民の人と作ろうというのが今回の企画だよと説明は必要。島民と連絡を取

って情報交換をし、そこが直接の窓口となるわけで、その人が後見人になるという意識で説明してもらえると助かる。

中塚さん：暮らしたいという良いイメージだけでなく、知り合いも大事なのですよと。

浅沼委員：縁故を作るというツアーですと説明が第一にあるべき。具体的な情報は縁故ができれば連絡も取れるので後からでも入手できる。あまりあせらないで、まずゆっくりと縁故を作らないと小さいコミュニティには入れませんよという事前説明だけは入れてほしい。そこはどこの島でも同じだと思うので。東京の普通の就職とは違うというイメージで。今回はバーベキュー時などでスリープレイメンバーと連絡先を交換してゆっくりと進めていくという。相談窓口は現地の人たちだと。

穴原委員：今回、暮らしたいコースを設定したからにはスリープレイのメンバーが最初の接点になるので、参加者が島に移住する際の相談役として親身になってもらいたい。

中塚さん：今回、暮らしたいコースは初なのでもっと詰めて具体的なことも決めたい。東京に戻っても穴原さんと相談しつつ、なるべく色んなことを想定しながらできることをやっていきたい。

浅沼委員：現実的に受入れ側も暮らしたいコースの詰め具合は弱め。

中塚さん：万全の体制で。出会いたいコースは1回やっているのだからなんとかなると思うが、暮らしたいコースがちょっと…。

浅沼委員：では予算に関して。粗方人数は出てきたが、まだざっくりしていて修正するところも多々ある。東京出が確定している都内参加者は13名、島内参加は1万円の参加費で5名。この辺の微調整はまだ出てくるが、当初予想したよりも余裕は出てきたので、現状の予算書には実行委員の都内添乗は1名だが、ここをなんとか2名にしてもらった方が。2人で行った方が向こうで何かあった時に対応が容易になるので、この添乗する人員をなんとか今日確定したい。あとは参加者人数の確定によってさらに細かい部分が決まってくるだろうと。何か質問があれば。

(中塚さん退出)

浅沼委員：前回説明していた会場や行程と少し変更点がある。マリンスコーレの花火をこの島コンに合わせて打ち上げてくれるので、味覚館で開催だと騒がしかったり、一般の島民の方の観覧スペースも規制をかけてしまったりするので、別荘を借りてそこでバーベキューと花火を観覧する流れに変更となった。また、当初のランチはミサキカフェだったが、こちらの不手際でココナッツに変更。予算があるので都内に行く実行委員をなんとか2名で。その後の行動にも影響が出てくると思うので、2名で行って出会いたいコースと分かれて対応してもいい。

谷会長：小島委員と穴原委員でいいのでは。

小島委員：会社と調整してから。

谷会長：関委員は。

関委員：連休なので要調整。

谷会長：穴原委員は確定で。

穴原委員：観光協会と確認する。都内ではビオさんに2名出してもらう。

浅沼委員：なんとか調整してこちらからも2名で出てもらって。1名だと何か対応しなければならぬ時に大変なので2名の方が安定感も増す。

穴原委員：次に行程説明を。手配・準備するものや確認事項は決まってない部分もあるが順を追って流れを。1日目の12日(金)に男性が出発。12時半に出帆港に集合、ここでスリープレイの誰が添乗するかは未定。ここまでに女性のプロフィール資料を男性参加者に配布できるようビオが対応。東京に着いて島嶼会館に宿泊。2日目の13日(土)、スタッフは17時に「ばんやしおさい」に集合して準備。ここで動画上映があるが、去年は島のPR動画を流してもらったと思うが…。

北川係長：スクリーンで流していた。

穴原委員：それはしっかり見るわけではなくBGMのような感じ？

北川係長：祭りの様子などを編集したものを流しっぱなしで。

小島委員：それはビオが作るの？

穴原委員：観光協会で預けてあるものを流すと思うのでその確認をする。男性は早めに集合し、女性に対する配慮や注意事項などの基本的なことを最終確認として伝える。女性は18時半に集合してもらい、そこから食事会を開始。ビオとも相談するが、進行内容はあまり仕切りを入れることなく、普通で問題ないのかと。

北川係長：ある程度仕切りがないと。前は誰もいなかったのが自分が参加者兼仕切り。

谷会長：こちらから行くメンバーが18時の最終確認と、20時半の移動のことだけ押さえておけば。あとは中塚さんなりが仕切る。

浅沼委員：「ばんやしおさい」側も進行や仕切りといったことを心配している。

穴原委員：男性が全員揃ってないというのもあり、1対1で自己紹介をして話すというのは三宅島にきてからやることなので。

浅沼委員：歓談してもらおう感じで。

谷会長：「島から参加する人もいるのでちゃんと仕切れないですが歓談的なイメージで」と、はっきり言えばいいのでは。

小島委員：そのくらいの仕切りは入れないと。心配なのは男同士でくっついてしまうこと。

浅沼委員：席次とか切り回しくらいのコメントは入れて。

谷会長：実行委員的な動きは無しにして、お店に任せるのはどうか。

穴原委員：三宅島に来て自己紹介するのであれば・・・

浅沼委員：三宅島に来てから全員で話しができる行程が入っているからいいかもしれない。

谷会長：係長が行くからいいのではないか。

事務局：島内からの参加になる。

穴原委員：名前と自己紹介位は入れて、後は島に来てから全員でやる事とする。

谷会長：実行委員がもし誰も行けなかったら、お店側か男性に頼むしかない。

小島委員：前日に仲良くなれば、三宅島に来てからのアイスブレイクはいらないのでは。

菊地(健)委員：席替えを2回程度行えばいいのでは。

小島委員：全員が座れるのか？前はどうかだったか。

事務局：前は3列位で座り、席替えは1回あったがちゃんと仕切らないとダメだと思う。

谷会長：男性が先に集合するから、女性が入ってきた時に男性だけ座って待っていると女性は入りづらいから、最初は適当でもいいのではないかな。

浅沼委員：交互に座るよりは、対面する形くらいでいいのではないかな。

谷会長：流れがある程度決まれば、明日の男性説明会でも説明できる。

小島委員：勝負はここから始まっているから・・・

谷会長：今回都内に行く人が増えたのは、みんなそれを分かってきたからではないかな。

穴原委員：店は20時半に終了して竹芝へ。移動手段は前回と同様に各自で移動。男性にリードしてもらい電車でもタクシーでも構わないと考えている。暮らしたいコースは21時に竹芝集合、実行委員は先に店を出て竹芝で受付、チケットを渡して乗船。3日目、島に着いたら男性は各自帰宅、女性は、出会いたいコースがホテル海楽に泊まるので海楽の迎え、暮らしたいコースは民宿みなとに泊まる。出会いたいコースはホテルに着いたら仮眠。男性は8時45分にココポートへ各自の車で集合、女性は9時に徒歩でココポートへ。ここで最初のガイドンスを行い、会長挨拶と説明があり、2階の交流センターで1対1のトークタイム。1時間位を予定しており、進行とタイムキーパーはスリープレイで行う。終了後、女性のみファーストインプレッションカードに3名の名前を記入し、それを午後のグループワークのグループ分けに反映させる。3グループに分け、男性のグループ分けは会長を中心にバランスよく分けてもらい、女性の意思を反映させる。グループ分けをしている間にアイスブレイクを行う。前回のように簡単に身体を動かせるような内容。

関委員：1対1で話した後アイスブレイクをするのか。

小島委員：確かにそうだが、グループ分けに時間が必要なため行う。

谷会長：担当スタッフをしっかりと決めていかないと。弁当の手配等の関係もある。

穴原委員：先に流れを全部説明する。グループ発表後は男性の車でココナッツへ移動、グループ毎に昼食。その後、午後の食材探しスタート。その時の注意事項は明日男性に説明。15時半に別荘へ食材を持ちこみ、女性を海楽へ送ってもらう。男性も帰宅し、再集合は17時半に別荘。男性を17時頃から迎えに行く。

谷会長：17時半の集合をもう少し早められないか。17時半から始めて、マッチングカードやアピールタイムを花火までにやるとなると、相当急がないとできないのでは。

菊地（直）委員：15時半で全員解散にならないのか。

浅沼委員：なる。

穴原委員：15時半に食材を運んで解散。

谷会長：花火の前にマッチングやアピールタイムは終わらせた方がいい。上がってしまうと声も聞きづらくなってしまうから。なので、スタートを17時にして、解散の時間を逆に設定しない方がいいのではないかな。着替えない女性もいるかもしれないし。

穴原委員：女性のシャワーや着替え等を考えて、解散後1時間程度取っている。

谷会長：BBQ開始を17時にし、明日の説明会で女性の着替え等もあるから15時半くらいにはホテルに送ってと伝えればいいのでは。17時集合は決め、解散は決めない。

穴原委員：男性の迎えの時間を先に決めて、伝えておかなければいけない。

谷会長 : では開始は17時。そうすればファーストインプレッションカードが18時頃から出来る。このマッチングに一番力を入れるべきなので、そこに時間を掛ける。

穴原委員 : 最初のカードには男女とも1名の名前を記入し、そこで合えばカップル席に座ってもらう。ダメだった人は明日のデートプランを発表するアピールタイムを行い、それが終わったらもう一度マッチングカードを書いてもらう。そこでカップルが成立した人は移動し、成立しなかった人はグループで明日の話などをしてもらう。

菊地(健)委員 : 17時集合で女性を16時に帰しても1時間では準備できないのでは。

浅沼委員 : グループワークの所を短縮してもらうしかない。

谷会長 : 明日の説明で、そこは早目に動いてもらうよう説明する。

菊地(健)委員 : マッチングカードの記入に男性は何名も書かせるか、誰でもいいなら無記入など条件を付けてもいいのではないか。

小島委員 : それなら2回目の時だけにしないか。

菊地(直)委員 : 集中してしまうと大変ではないか。

穴原委員 : それはスリープレイ側で調整すればいい。

谷会長 : では1回目は1名でいく。2回目はそうできるようにするか。女性もそうするか。

穴原委員 : 女性もそういうのがあってもいいと思う。前回はそういう声はあったから。

谷会長 : 1回目も2回目も女子は単独で。女性の気持ちとしてはどうなのか。誰でもいいという人と誰も嫌という人もいるだろうし。各自に任せる方向でいいのではないか。

浅沼委員 : こちらとしても、カップル成立率を高めていきたい。

穴原委員 : 当日、スタッフが間を取り持たないと。女性も予定が決まらなければ不安になる。

谷会長 : 花火中はスタッフが頑張っ、動くようにする。カードはどうするか。

浅沼委員 : 男女とも最初は1名で2回目は自由記入でいいのではないか。

穴原委員 : スケジュールとしては花火の時に次の日の予定を決めてもらう。終了後はバスを用意している。そこでバスに1周してもらうので、男性も自宅へ帰れる。

谷会長 : 何時間借りているのか。

穴原委員 : 2時間借りているので、2週目にスタッフを送る事も可能。

菊地(直)委員 : BBQの準備は全て参加者がやるのか。

穴原委員 : 出会いたいコースはある程度、参加者男性に火起こし等はやってもらう。食材は正大に頼む。魚や野菜はみんなが持ってきたものを食べてもらう予定。

谷会長 : 暮らしたいコースも来るから、ゴミ箱設置したり、テーブル並べたりとここにスタッフは大勢必要。

菊地(健)委員 : 場所はみんな一緒か。

穴原委員 : 1階と出会いたいコースで、2階を暮らしたいコースに分ける。

菊地(健)委員 : お酒はうちが両方手配するのか。

穴原委員 : 両方に提供できるように、一度現場を下見してもらいたい。

菊地(健)委員 : ドリンクブースは2か所設置するか。

谷会長 : 1か所で構わない。両方のコースが取りに行く形にする。

浅沼委員 : 水回りや動線など一度見てもらいたい。

菊地（直）委員：時間は何時から借りているのか。午後からだ動けない人もいる。

穴原委員：時間をもう一度、確認する。

浅沼委員：あまり食べる時間がなくゲームなどは出来ないかも。BBQ台は何台あるか。

穴原委員：協会に3台あって、漁協から1台借りる。上に1台、下に3台置く予定でいる。

浅沼委員：グループ毎に台を用意するが、後は自由に動いてもらっている。

穴原委員：出会いたいコースの流れは以上。暮らしたいコースは9時半からスタートで会長が挨拶。そこからバスで島を1周廻りながら住居、社協、あじさいの里、正大や海楽に寄って担当者に職場の概要などの話をしてもらう。あじさいの里と中央診には事前に話をしている。その移動の間に観光施設に寄ってガイドから紹介。昼は島嫁と一緒にカノンで昼食。午後は農漁業体験で会長に磯に連れて行ってもらう、その後菊地（直）委員の所で農業体験。宿には15時半位に到着し、BBQ会場に移動して夕食。時間は出会いたいコースとはずらしてもいいと思うがいかがか。

谷会長：迎えに行くときにそこを通るから一緒に時間の方がいい。

穴原委員：では17時にスタート。ここでは島民と交流し、島暮らしなどを聞きながら情報を得てもらいたい。スリープレイスタッフはなるべく暮らしたいコースに入って交流を。それから花火鑑賞、翌日のオプション（シュノーケリングとトレッキング）を最終決定。帰りは出会いたいコースと同じバスに乗車。最終日、出会いたいコースはフリータイム、暮らしたいコースはオプションメニューかフリータイム。シュノーケリングは山田委員、トレッキングは私が対応。昼食は参加費に含まれないので男性と一緒に済ませてもらう。暮らしたいコースは最初に希望を取り弁当か店で食べてもらい費用は各自負担。13時に全員集合して乗船、見送り。流れは以上。

谷会長：スタッフの同行表を作らないといけないのでは。

浅沼委員：観光協会から人は出してもらえるのか。

穴原委員：私の他に1名出る予定。ではスタッフの予定を確認していく。

浅沼委員：見送りは全員いた方がいい。

穴原委員：椅子はココポートに何脚あるか確認。足りないなら漁協か役場から借りる。

谷会長：後は全ての行程のきちんと責任者を決めておいてもらいたい。同行表の中にそれがないと引き継ぎができない。では、最終的にその同行表が出てくる。それと来月の広報みやげの「みんなのコラム」にスリープレイが出ます。では一旦休憩。

～ 休憩 ～

3. 定住促進対策事業提案書について

谷会長：定住促進対策事業について事務局から説明を。

鈴木：前回までの話ではスリープレイとして村長に提案するというので、途中抜けている部分もあるがたたき台を作成。（会議資料④の説明）「1. 目的」として「人口減少や過疎化、後継者不足が進んでいる中、定住促進と地域経済の活性化をもって人口増加につなげていく」ということで始め、「2. 三宅村の現状」では村の人口を出し、将来

人口はこれだけ減っていくということから産業構造の推移につなげた。「居住環境」では空き家があってもなかなか貸せない状況にありそれを整備していかないとという内容で、村営住宅の状況、空き家バンク、防集団地等について記載。「3. 定住希望者の需要」では昨年の島コン参加者から出た意見と、今回の島コンで暮らしたいコース参加者から期待している点や不安点についてアンケートを取り、反映させたい。「4. 定住希望者への供給」では村役場や民間業者の仕事、パート・アルバイトの募集等について挙げ、「居住先」も現状のものを案内として示している。最後にスリープレイから村への提案として、「人口動態、将来人口推計、産業構造の推移から、三宅島の将来人口は間違いなく減少の一途をたどることが予測できる。スリープレイではこの問題を打開するため、村が喫緊に対処すべき課題は『人口増加』であると判断し、『島外者をいかにして移住させ、島人になってもらうか』を一つの方策として位置付け、即効性があり実現可能な取り組みについて議論を重ねた。その結果、「短中期滞在希望者サポート事業（仮称）」と題して、次の取り組みをリンクさせた事業展開を提案する。」その内容は「居住スペースの整備、施設イメージは御蔵会館が理想、短中期滞在型による運営管理、バイト先が確定した者を入居、住民票の移転確認、社員となった時点で退室」。前回の島コンを通して見えた課題から村に要望する、という形で提出できればと考えている。途中の空欄箇所や全体についてもっと議論を重ねて肉付けしたい。

谷会長：これは何回か事務局と菊池委員と話し合って作成。簡単なスケジュールとして、今回の島コンの結果も反映させ10月くらいには大雑把に仕上げたい。行政の動きから言うと11月議会に向け10月後半には動き出すので、当初からスピード感を持ってということ踏まえると、この事業がすぐ動き出すとして例えば調査費等の予算を来年4月から付けたいので11月頭にこれを提案したい。来年度の予算要求は11月提出、議会を通し決定という流れで少し急げばできる。この完成版を11月頭に作成という方向で動きたい。この資料は事前配布したので読んでいると思うが、大雑把に言うと能書きがあって提案がある。最初の能書きは状況分析として当然必要で、ここにそれ以外のことを載せたいのであれば補足する。個人的には「5. スリープレイの提案」の部分はA4 2枚ぐらいのボリュームが欲しい。提案部分はもっと強くしたいので、もう少し具体的なことも必要。今回の島コンでは暮らしたいコースもあり、新たな課題が見えてくると思うのでその部分をもっと考えて。9月末でこれを皆で確認し、各指摘や意見を反映していきたい。現時点でこの提案の仕方が違うというのであれば、これ自体を見直すことも検討する。何か意見があれば。

菊地(直)委員：産業構造の推移のところに、調べられる限りで年齢層を入れてほしい。農業委員会でも調べようという話が出ているが、例えば農業の方で「平均年齢がどのくらいで何年後には農業者数が何人になってしまう」などを入れたい。宿泊業にしてもどンドン件数が減っていくであろうということが見えるので、その辺も調べられれば入れてほしい。

谷会長：(事務局へ)提案書としてもう少し具体化する必要はあるのか、それと調べられるか。そもそも提案書はよくあるものか？たいていは諮問機関があって諮問に対し答申を

するが、スリープレイは諮問機関ではないので答申ではなく提案をする。一般人が考えたこういった提案書が村長に上がることはあるのか。

北川係長：記憶の限りではない。通常、村に対する提案や要望は議会があるのでそこから意見として上がる。それ以外は農業委員会が村長や知事に提言できる権限がある。

谷会長：その提案はどのくらいのボリュームなのか。

北川係長：絞ったテーマがあれば、まちまちだが2、3枚で要望書という形。データ等は付けずに「こうしてください」という形態のものが上がってくる。

谷会長：村長に提出する場合、村長はこの能書きを分かっているから当然で、正直いらぬ気がする。ただ、この提案書の今後の扱いとして、これがホームページに掲載されるとか、色んな人、本当に知らない人がこれを見る場合、最後の結論だけではあまり意味がない。能書きがあって初めて「なるほど、こういうことで本当に必要なのか」という気持ちになる。今後の扱い方でこのボリュームも決まると思うが。

北川係長：最初にバックデータがあり、それを受けてこういう事業を提案したいという流れになっているので、これはこれで形式的には良いのでは。書き方の定義があるわけではないので厚くても薄くても構わない。型にこだわらなくても良いのでは。

谷会長：どの程度のレベルで出すか。これでは簡潔過ぎるので統計的なことなどのバックデータをもっと厚くした方がいいのか。もちろん提案のところは具体例を出すなり厚くした方がいいと思うが。菊地（直）委員が言ったように、もっと細かいところが必要であればそのようにするが。

小島委員：提案の部分をもっと膨らませるなら、予想というか、「これをすればこのくらい人口が増えるのでは」ということが入ればもっと説得力が出る気がする。どう計算するかは分からないが、前段で数字が出ているので最後でも数字を出した方が。

谷会長：我々も人口増加に対しての知識があまりにも無さ過ぎる。三宅と類似した自治体で、とくに離島であればなお良いが、どういう事業を展開してどれだけ結びついたかという例を事務局で調べられないか。

小島委員：海士町の短期研修の数字とか。

浅沼委員：短・中期滞在型施設がなぜ必要なのかがあまりにも薄い。提案の一番重要なところが最後にきて少ししかない感じがある。なぜ導入しなければいけないかを…。

谷会長：そこは委員で話すべきところだから、という事務局の意向で。

穴原委員：例えば、村営住宅は住民票や後見人がいないと借りられない現状とか。

菊池委員：盛り込んだ方がいいものを皆で出しあい、それはくつつければできる。

谷会長：体裁もあるし、村長は分かっても一般の人は分からない。一般人を味方にして民意として上げることが大事。そのためにもう少し広く知らしめたい。

浅沼委員：短・中期滞在型施設やこの事業をなぜ行う必要があるのかの、噛み砕きの部分が前後にもっと必要。外からの視点でこれがないとか、移住者目線での意見を盛り込むとか。そこら辺をアンケートから要望や希望として吸い上げて肉付けする。

谷会長：話は変わるが、来月の広報のコラムにスリープレイが載る。意外と（我々の活動を）知っている人はすごく知っていて、会長という立場だからかよく声を掛けられる。

皆さんもアンテナを張って意見をまとめてもらい、それを組み入れる。「こういう提案をしました」ということも当然（公に）出るわけで。

北川係長：村長に報告した時も、議会とはまた違う立ち居地で型に縛られない自由な意見を言う団体でいてくれということだったので。報告書として形になっているのでこれはこれでいいと思うが、提案の部分がもう少し…。

谷会長：提出までにあと2回会議ができるくらいのボリュームなので、次回までに提案のところを一人一つくらい考えてくる。次の会議で今回の島コンの結果が反映され、提案部分をさらに肉付けする素材を持ち寄って議論を重ね、最終的な提出とする。秘密にすることでもないなので、色んな人に意見を聞いても構わない。今回の暮らしたいコースの人にもその辺の話を知りたいと思うので。

穴原委員：現段階の問い合わせからも、住む場所や仕事もそうだが、困った時に相談できる窓口や相談役のようなサポートも必要かと。そういった声は届けるようにする。

小島委員：都内に住んでも誰もその土地のことは教えてくれない。田舎だからそういう人がいた方がいいのは分かるが、「手引き」とかそこまでしなければならないのか。

谷会長：レールの上に乗っている人はすぐに引き返してしまう。そういう人はこういう災害の多い島では、まして他の地域に比べて下降しているし…。これについてはここで議論してもすぐ出るものではなく、まだ時間があるので。あとは地元目線ではなく、島外から来たいという人の声をできるだけ反映させられる作り方で。

浅沼委員：暮らしたいコースのBBQの時に、意識のある人はどういう考えで参加しているのかといったディスカッションを入れる。

穴原委員：問い合わせの中には、家族を連れて行ってもいいか、夫婦でのコースは無いか、年齢層が比較的若いが団塊の世代とかシニア層は無いか、といった声もある。

浅沼委員：世の中では移住とかに関心があるという状況はうすうす分かる。

鈴木：暮らしたいコースのアンケート内容についてもっと要望があれば。

菊地（直）委員：何か資格を持っていますか、とか。

穴原委員：どんな資格があると良いかという質問もあり、今募集中の職種で「こういう資格では貸付金制度も利用できる」と案内。資格も少し頑張れば取れると思うので。

小島委員：この免許があればどこに行っても食べていけると分かるものでは。

穴原委員：そうだが、特に島だと特殊なのかと思うのでは。

浅沼委員：直接会って個別に話しをしていった方が。

谷会長：アンケート内容はこれで。数字で出すよりも具体的なことはヒアリングした方が。

菊池委員：住みたくないと言った人にその理由も聞けるように。マイナス側の意見も。

浅沼委員：住みたい、住みたくない、の回答については両方ともその理由を聞く。

谷会長：住みたくなくなるためには、何が欠けているのか、ということも。

関委員：島に移住しようとしている時に、どのように情報収集をしているか、ということも。

穴原委員：ツアーは何で知ったかという質問は両コースのアンケートに入れる予定。

谷会長：それは次回の周知の仕方にも生かせる。

浅沼委員：団塊の世代も島に移住したがっている。

谷会長：23区内で離島や田舎に住みたい人は41%。その内30歳未満が34%とか、すごい率。

浅沼委員：人材難とかの問題は解消しうるツールになる可能性はある。

菊地(直)委員：三宅島に何が良かった方が良いか、とか。単純にコンビニとかもあると思うが。

谷会長：最後に自由欄を設け、例として「島に何が良かったと思うか」などを入れる。

これについては11月目途で、次回は意見や訂正等をもらい皆さんと作り上げたい。

4. その他

北川係長：総合計画のローリングを毎年行っており、今週から来月末ぐらいまで各課に事業の見直しをかける予定。今出ている「短中期滞在希望者サポート事業(仮称)」が来年度から動き出すとなると、総合計画の中に平成27年度から何をするかを明記しないとイケない。例えば1年目は100万かかるとか、2年目は200万かかるとかの予算だけだが。以前、矢印が付いただけのものを提示した。それを9月中に作成し、10月に総合開発委員会にかけ、11月にその結果を次年度予算へ要求していくという毎年の流れ。これ自体はもう少し議論を深める必要はあるが、例えば1年目は調査、2年目は居住場所、施設、これでいうと御蔵会館の整備など、基本的にある程度の計画が年度毎にないとまずいかなと。少し早まるが。

谷会長：担当課は総務課？

北川係長：おおまかにこの年はこれをやると示してもらえればこちらで作成する。村全体でどういう事業をやっていくかということも一方であり、スリープレイとして、総務課の企画としてこういう事業を提案したいと財政と折衝。こちらでも考えるが、平成27年度から始めるとして年毎に行う予定のようなものを示してもらえれば。

谷会長：時間もないので、普通に考えて3年間の婚活事業があり、今回、暮らしたいコースを実施し、今回成功するしないはさておき次回もそのコースがないと。その人たちを目途にというと、御蔵会館の動向もあるので、来年には調査費で再来年にリフォームくらいの勢いじゃないと。

浅沼委員：見積りとか整備状況を確認してから本格的な予算になると思うので。調査費の中で御蔵との折衝もしていけないとイケない。話しの大筋が見込めれば次に移ると。

谷会長：当初予算で調査費を取って補正で改修の費用まではとれないので、そうすると次年度の当初予算でとなってくる。

北川係長：調査の段階で、施設を改修するという部分もそうだが、今後の維持、例えば管理人を置くとするとその委託費用とか人件費的なものもひっくるめて調査ということになる。そこがないと改修工事をするのかという話にもなってくるので。

谷会長：今の話はあくまで御蔵会館に絞っている話で、それ以外の方法もまだ模索しなくてはイケないので、どちらにしても1年目は調査費。それ以上は無理だと思うので次年度に改修、というところではいいのでは。それくらいしか話はできない。

浅沼委員：それから先は、基本的に運営コストなりで回していくという予算取りで…役場の予算構成がよく分からないが。どういう仕組みとか。

谷会長：その前に、27年度までしかスリープレイに予算がないので、これを提案して調査

が進んでリフォームとなっても、(スリープレイが)なくなる可能性もある。

北川係長：なのでそれとセットにすることでスリープレイの役目も広がるかと。

谷会長：逆にスリープレイは終わりで、その提案はどこか別の機関がやる可能性もある。

北川係長：最初の話だとNPOという話があったが。

小島委員：NPOの話があったからそこで終わる予定だったが、しませんとなったからこれを伸ばしてという話？

北川係長：そうなるのか、この委員会として、今は島コンをやっているが今度は定住促進に向けて動きだす、役割をもつ委員会として機能するという方向になれば当然…。

浅沼委員：それか今後も提案をし続けるか。方向性は色々あると思う。あまり1事業にずっといることが良いかは微妙なところ。提案することに価値があるのか、実施運営主体であるべきなのか。提案する団体なのか運営団体なのか分からない。

北川係長：なので今回の事業のように補助金を取ってそれを運営しているという。今回は島コンが補助金をもらってスリープレイが運営していくという。海士町などもそうだが全国的な流れでは、NPOを作り補助金を取って運営しているという形態。

浅沼委員：どこかでやらなければいけないのはその通り。とりあえず今はこの提案まで、あとの落としどころである実施主体をどうするかはまだ…。

小島委員：御蔵会館だけで？この事業となると、御蔵会館以外も使えるとなってきた時に改修が3億かかるようになったら…という話になる。

浅沼委員：とりあえず御蔵会館をイメージして一応やっていく。

小島委員：もしかしたらその別荘を買収という話になるかもしれないし…。

谷会長：まず調査費で、その後が改修費で。

北川係長：御蔵会館、空き民宿、空き家とどこになるにしろ、恐らくは何らかの改修費をかけて短期滞在の方の研修施設のような形に半分なると思うので、それなりの改修などは必要になると思う。その辺のハード整備は避けて通れない。

谷会長：現実的な話をすると、新築でというのは恐らくありえない。実際ハード面は、手を加えれば使える施設はたくさん余っているわけだから。ではそれをお願いします。

4. 次回開催について

10月7日(火) 14:00～ 役場臨時庁舎3階会議室